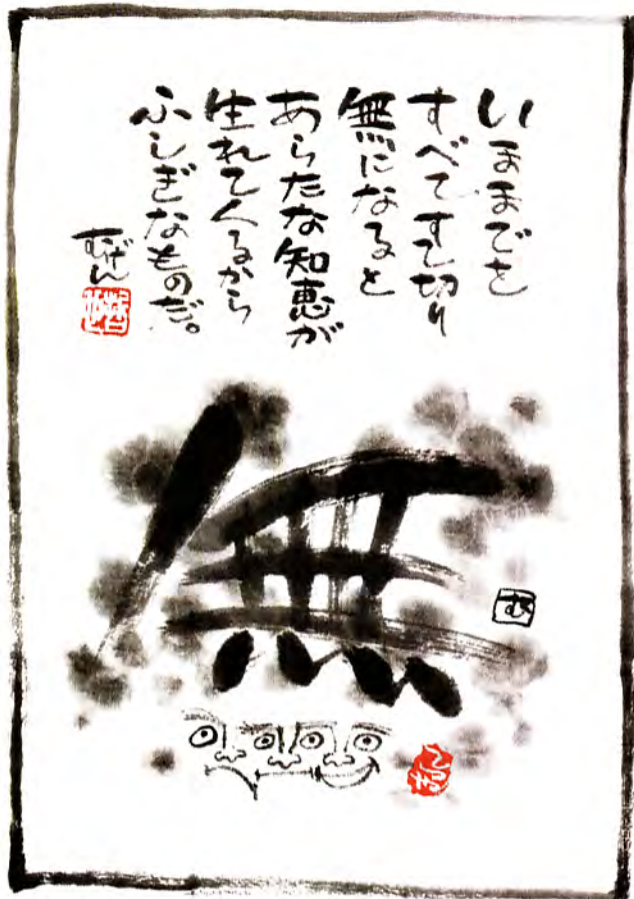


今月の写真

樹木のある風景



加良部の家 中庭に植えられた姫シャラ



加良部の家のシンボルツリー アオダモ

待ち望んでいた紅葉の美しい秋がやって来ました。皆様お元気にお過ごしのことと思います。

ここ我が家ではもう人の住むところと自然界との境目がなくなったのか、ある夜のこと、窓の外を”トットトット”という感じで何かが歩いていました。それは猫ではなく・・・タヌキでした。とてものんびりした動作はなかなか愛らしいものです。まっすぐで針のような毛並みが特徴です。夜行性のためかわいそうなことですが、車に撥ねられるタヌキが多くて、いたるところでも目撃するようになりました。そのタヌキー昨年(?)の暮れには秋葉原に現れて、川の脇にある万世橋警察署の警官が捕捉したとのこと。川づたいに都会にやってくるオタクなタヌキもいるようです。私もその類ですが、ヨドバシが進出してから人の流れがこのマンモス店舗の周辺に集中したように感じます。ちいさな専門店にがんばって欲しいですね。

さて、「岬の家」が11月20日発売の「新しい住まいの設計1月号」で紹介されることになりました。結設計さんの設計による海に見える家が撮影され暮らしぶりがどのように紹介されるのか楽しみです。

今回は加良部の家の仕上げ編をご覧いただきたいと思います。11月23日からの三日間、施主様にお許しをいただいて、現場内覧会を開催することになりました。無垢の木と漆喰がつくり出す伝統的な雰囲気の中に、明るくデザインされた現代的なデザインが随所に取り入れられています。是非、ご覧いただきたいと思います。設計した高松俊秀さんと「真の日本の住まい」というコンペに参加します。忙しくこの秋を駆け抜けていきたいと思います。

(平成19年10月)



(玄関) 玉石をモルタルで埋め込む



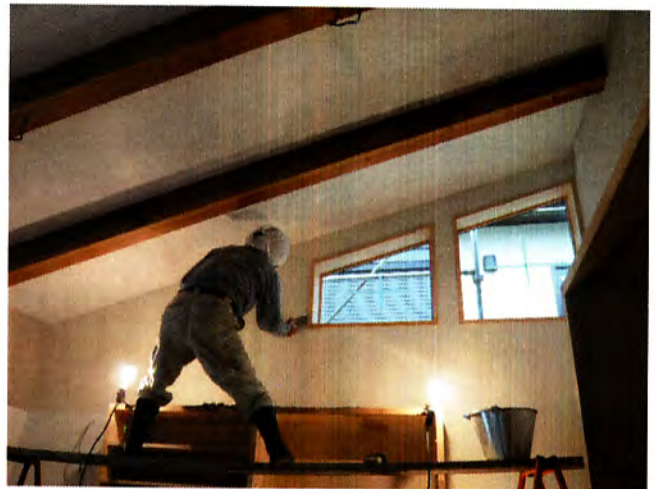
水で洗い流します



洗い出し仕上げの完成



天井に漆喰を塗っているところ



壁にも真っ白な漆喰を塗ります。



外壁・漆喰塗り作業



(塗装) 檜材を古色に色付け



(経師) 建具に和紙を張る

弊社でつくる住まいは、大工・左官・建具の職人がいれば仕上げのほとんどはできてしまいます。熟練した職人なくして家をつくることはできません。工期のうち約半分をしめる大工の作業精度がもっとも大事になりますが、同様に塗り壁の仕上げを任される左官の力量も大きく品質に影響します。木と土と紙で仕上げていく住まいこそ弊社のもっとも得意とするものです。

加良部の家は公開を予定しております。HPでご案内しておりますので、内覧会においていただければ幸いです。
(前回に続いて加良部の家にて)

「いい家をつくるには施主さんの思いと工務店の思いが重なって(設計者も含めて)、双方が相思相愛になることが大切だと思います。」と以前書いたところ多くの人から共感をいただきました。気持ちが入ってこそいい住まいができます

発行者 ご連絡先
秋葉建設(株) 秋葉 忠夫
〒289-2163 匝瑳市南神崎52-1
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
Eメール master@woody-akiba.com
HP URL <http://woody-akiba.com/>